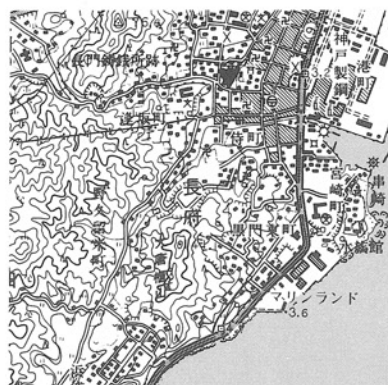


山口・長門国府跡ながとこくふ（宮の内地区）

- 1 所在地 山口県下関市長府宮の内町
- 2 調査期間 一九九八年度調査 一九九八年（平10）六月～一九九九年三月
- 3 発掘機関 下関市教育委員会
- 4 調査担当者 水島稔夫・波多野敏郎・高月鈴世・中原周一
- 5 遺跡の種類 官衙跡・城下町跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

長門国府跡は、山口県下関市の南東部にあたる長府に所在する。



（小倉）

長府は国府が置かれて以降も都市として整備され、近世には長府毛利藩の城下町として機能した。調査対象地は長門国府跡の中央に位置する。
木簡は、この地に存在した江戸時代後期の建築とされる長屋門の建物基礎石垣

の裏込め内から出土した。この長屋門は、代々長府毛利藩の藩医を勤めた松岡家の邸宅「松嘯館」の門であった。「松嘯館」は文化年間（一八〇四～一八一八）に松岡家がこの地に移ってきた際に建てられたとされ、共存する遺物も一九世紀前半に比定される。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「長府松岡道築」

・「長府松岡道築」

128×37×5 011

札状木製品の完形品。板目取りで四隅の角をとり、上部中央に穿孔する。墨は明瞭で表裏とも同文を墨書する。「松岡道築」とは、一九世紀前半の松岡家八代当主である。調査対象地は、弘化三年（一八四六）の「長府毛利藩城下町屋敷割図」に「松岡道築」邸宅とある地点で、木簡の内容はこれと一致する。

9 関係文献

- 下関市教育委員会『長門国府跡（長門国府跡周辺遺跡群第一次発掘調査）』（二〇〇一年）

（中原周一）

